

焼津市立東益津中学校いじめ防止基本方針

【PTA・地域との連携】

- ・保護者への連絡は、電話連絡だけでなく、出来る限り、直接会って説明する。
- ・保護者会・学校運営協議会など、情報交換の場を設ける。

【校内研修等】

複数回、生徒理解研修会・特別支援研修会をもち、生徒の生い立ちや小学校時代や生活の様子などの情報交換を行う。教職員全体で共通理解を図り支援計画を立て生徒の変化にいち早く気付くよう努める。

【目指す子ども像】

- (1) 自ら考え判断し、主体的に行動する生徒（自律）
- (2) 互いに個性を尊重し、多様な在り方を認め合う生徒（共生）

【学校いじめ問題対策委員会】

校長・教頭・教務主任・生徒指導主事・学年主任・養護教諭・SC・SSW

○必要に応じて、関係機関に参加の要請をする。

〔学校評価〕

いじめ対策の取組の実施状況を確認し、成果と課題を明確にする。

【生徒指導体制】

- ・いじめへの対応は、個人ではなく組織で対応する。
- ・いじめ情報を得た場合、即座に「いじめ問題対策委員会」を開き、即日対応する。

【関係機関等】

- ・焼津市子ども家庭相談センター
- ・焼津市青少年相談センター
- ・焼津警察署生活安全課
- ・スクールソポーター
- ・児童相談所
- ・SSW(スクールソーシャルワーカー)

【教育相談体制】

- ・特別支援コーディネーターを中心、SC、SSW、心の教室相談員、特別支援教育支援員と密に連絡をとり、早期発見・早期対応へのアドバイスをしてもらう。

【未然防止の在り方】

- ・学年職員は、生活の基盤となる学年がどの生徒にとっても居心地の良い場となるよう、いじめの起これににくい集団づくりに努める。
- ・道徳の授業で「いじめ防止」関連の教材を扱い、道徳的価値観を高める。縦割り、全校道徳の実施。
- ・学級活動・生徒会活動で、生徒主体の活動を取り入れる。縦割り学活の実施。

【早期発見の在り方】

- ・生徒が出すサインをキャッチする為、毎朝の「心の天気」など個の様子や日々の学級の雰囲気に注目するとともに、生徒が提出する連絡ノートや年3回の「生活向上アンケート」等から情報を収集する。
- ・年2回勇気づけ面談(個別)を行い、生徒の集団における満足度や学級や学年集団の状態を把握し、いじめ被害の早期発見に生かす。

【早期対応の在り方】

- ・報告…連絡…相談を出来る限り速やかに行い早期に対応する。
- ・問題発生の際には、学校組織を最大限に生かし、複数で対応する。問題共有は、速やかに学年間及び学校内での情報交換を行い、全校体制で該当生徒に関わっていく。
- ・状況により関係機関などと協力しながら、全職員の共通理解や共通実践で対応することを旨とする。

【継続支援の在り方】

- ・支援員・相談員・SC・SSW等との支援連絡会を毎週もち、継続的な見届けと支援を行う。生徒からの情報も把握し、状況の変化に対応する。
- ・生徒理解研修やケース会議で、生徒の状況を把握し、関係機関からの助言を求めながら、全校体制で支援をしていく。

【重大事態】「焼津市いじめ防止等のための基本的な方針」に基づき、事実確認の結果を直ちに焼津市教育委員会に報告し、連携して対処する。

令和7年度 焼津市立東益津中学校 いじめ防止対策年間計画

月	①組織・連携・点検・評価 等	②未然防止	③早期発見・対応と継続的支援
4	・生徒理解研修会で生徒理解の共通化を図り、支援方針を立てる。【P】	・学級担任中心の二者面談。【D】 ・縦割り学活の実施。【D】 ・生徒会を中心とした体育祭の企画と準備。【D】	・毎朝の「心の天気」などや生徒の様子から情報を収集する。【D】 ・学級懇談会等、保護者からの情報収集の機会を設ける。【D】 ・勇気付け面談（担任との二者面談）を行う。
5	・特別支援研修を行い、研修会での支援方針を基に該当生徒の支援計画を立てる。【P】	・学級担任中心の二者面談。【D】 ・生徒会を中心とした体育祭の練習と運営【D】	・勇気付け面談（担任との二者面談）を行う。
6	・人権教育研修会参加(人権担当)。【D】 ・研修後、全職員で研修内容の共有をし、以後の人権教育に生かす。【A】	・生活向上アンケートを実施。【C】	・生活向上アンケートの情報を共有すると共に、取り組みの修正をする。【A】
7	・特別支援研修を行い、5月に立てた支援計画から、生徒のあらわれの様子や変化を全校で話し合い、支援のあり方の向上を図る。【A】		・教育相談（保護者を含めた三者面談）を行う。【D】
8	対象となる事例があれば、速やかに学校いじめ問題対策委員会を組織して即日対応する。 必要に応じてS C・S S W等の関係機関に参加の要請をする。		・夏休みの生活設計を通して、生活の変化を把握する。【D】
9		・学級担任中心の二者面談。【D】 ・縦割り、全校道徳の実施。【D】 ・学年職員中心の二者面談。【D】	・生徒が提出する連絡ノートなどや生徒の様子から情報を収集する。【D】 ・勇気付け面談（学年職員との二者面談）を行う。
10		・生活向上アンケートを実施して生徒から情報収集を図る。【C】 ・文化祭に向けての発表準備。【D】	・1学期の生活向上アンケート時と比較し、新たな問題が発生していないか確認する。【A】 ・学級懇談会を設け、保護者からの情報収集の機会を設ける。【C】
11		・「人権尊重」の道徳学習。【D】	
12		・保護者・生徒・職員アンケート実施。【C】	・アンケートの結果の確認と対応。【D】 ・3学期以降に向けての計画修正。【A】 ・教育相談（保護者を含めた三者面談）を行う。【D】
1			・冬休みの生活設計を通して、生活の変化を把握する。【D】
2	・教育課程全体会及び校内委員会で本年度のいじめ防止対策の実践を評価し、成果と課題を洗い出す。【A】	・生活向上アンケートを実施。【C】	・1、2学期の生活向上アンケート時と比較し、確認する。
3	・教育課程全体会及び校内委員会で課題に対する対策及び次年度のいじめ防止対策のあり方を検討する。【A】		・春休みの生活設計を通して、生活の変化を把握する。【D】